

# 1-4

## 口腔体操導入に向けての取り組み

口腔機能の向上・誤嚥防止と職員の意識改革

意識改革

個別ケア

特別養護老人ホーム 上中里つつじ荘

養護係長 小河原 雄幸

石井さとみ・小室孝子・深津敏明・松本直子

東京都北区上中里 2-45-2

森田智子・山田祥子・鈴木美幸・今野祥子

TEL : 03-5390-6000

E-mail : tutuji@kitanet.ne.jp

FAX : 03-5390-6007

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

平成5年に130床（内ショート10床）の特養を開設。周辺は住宅が隣接し静かな環境。地域に開かれた施設となるよう地域の学校や町会・ボランティアなどとの交流を積極的に進め明るく家庭的な雰囲気を大切に施設をめざしている。

### 〈取り組んだ課題〉

（取り組みを始めるきっかけとその時の状況）

平成18年3月に口腔機能向上に関する講習を聞き、口腔体操により摂食嚥下状況の維持・向上が望め、その結果職員の意識改革精神的緩和になると考え取り組み始めた。開始当初は仕事が増えるといった消極的な考えが多かった。

### 〈具体的な取り組み〉

（対象者と割合）120人中嚥下機能の低下が見られる方・本人が食事形態の改善を望まれているが現状では難しい方5名を対象として選択した。

（手法） 歯科医師などの指導下に口腔体操を食事前の5分間行った。また、良姿位を保ち食事を摂取出来るよう各々の食事時の姿勢などを見直し検討し対応していった。

（取り組み期間）

- 1 良姿位になるように足台を作成・椅子・テーブルの高さ等を検討
- 2 歯科医師などの指導下に口腔体操を食前に実施・記録をする
- 3 歯科医師による中間評価
- 4 自己口腔体操が出来ない方へのアプローチを検討し実施・記録をする

（必要用具）足台（牛乳パックなどで作成）

椅子クッション（業者に協力依頼5000円で作成）

口腔ケア器具（50本2000円程度）

（活動成果を出すポイント）

職員への周知と勉強会・定期的な見直し

利用者が前向きに考えられるようになるアプローチと食事環境の見直し

### 〈活動の成果と評価〉

**事例1** K・T氏 介護度5

食事形態：粥・軟菜食・トロミ使用

摂取状況：義歯使用しスプーンにて自力摂取

食事中・食後・歯磨き時ムセがある

一回の口に運ぶ量が多く咀嚼回数が少ない

ムセても食べ続ける。

成果：持続的なムセであったのが単発的なムセになりムセる回数も減ってきた

**事例2** M・H氏 介護度5

食事形態：ミキサー食・水分はゼリーにする

摂取状況：自歯・義歯は無し、全介助で全量摂取

口腔内への溜め込みや流涎がある。

食事中ムセ5回ほどある

覚醒が悪いことある

成果：口腔刺激を行うことで覚醒がみられた

口腔刺激をした直後は開口よく溜め込みや流涎が軽減された

ムセが食事中2回ほどに減った

（利用者の反応及び対処法・自己評価）

最初は興味をもって積極的に行っていた対象者が1ヵ月経つと自分からは行わなくなり「飽きた」と話される。→職員のアプローチ法を工夫する

家族や対象外の利用者が口腔体操に感心を持ち一緒に行うようになった

食事環境が不十分であったことが再確認できた。

「食事環境の見直しだけでなく生活全般環境への見直しを」と現場職員から声があがるようになった

〈今後の課題〉

食事環境の更なる見直しと口腔体操の工夫  
個別ケアにいかせるようにつなげていく